

早稲田大学 法学部 英語 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	大問は昨年より1つ減って7題。設問数は減ったが分量はかなり増えている。昨年の10ページから11ページになった。1ページ分は大きい。READING/GRAMMAR SECTION のIは英文の分量が大幅に増えた。IIは昔スポ科で出題されたことがあるようなテーマであった。昨年初めて出題された表を読み取る設問は今回早くも姿を消した。前置詞・副詞を入れる語補充問題はturnを含む熟語から成り立つもので、法学部が時々出題するパターン。正誤問題はそのまま。INCORRECT を選ばせる空所補充問題はなくなり、純粋な空所補充問題が新たに加わった。法学部の文法問題は毎年変更があると思ったほうがいいたろう。WRITING SECTION は、VIに今年度も語整序問題が出た。語形変化はなし。VIIの自由英作文問題は、絵をどう解釈するかの問題。ここ数年通りであった。絵を解する感性が問われるか？ 読解問題は分量が増え、下線部の意味を問う問題がやや難しく、内容不一致問題もやや解きにくかったので、今年度はやや難化か。文法問題のレベルも昨年よりやや難。英作文問題も絵の解釈が難しく、全体としても若干だが難化したと言えよう。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	長文読解問題	英文のレベルは昨年並みだろうが、分量は30行程度増えている。書き出しのある内容一致問題と内容不一致問題があるので、同時並行的に解いていくのはかなり面倒だ。どちらの問題も先に選択肢を見ておくことが肝心だ。固有名詞、数字、時や場所を示す表現、見たことのない表現などを目印にして読み進めるといい。情報処理能力勝負の大問だ。下線部の単語の意味を問うものは、誰も知らないような語彙が狙われた。類推するしかないが、結構大変だ。talking past each other は少し前の but を利用する。kicked off talks ⇔ talking past each other の逆接関係を考えるといい。直後の The regulation had gotten nowhere もヒント。分量が増えて下線部も難しかったので、昨年に比べるとこの大問は難化したと言えそうだ。	標準
II	長文読解問題	分量、レベルとも昨年並みか。段落要約文問題と内容一致問題があるので、I同様、両方を意識しながら読み進めないといけない。特に内容一致問題は選択肢の印象的な語句をあらかじめ押さえておいて、読み進めないと読んだ該当箇所を探すのは結構時間がかかる。選択肢の該当箇所をいかにすばやく見つけられるかがポイント。(3)の要約問題は最終段落最終文が該当箇所。わかりやすい箇所に該当部分があった。仮定と現実が同意になるパターンは意識しておくといい。 <u>~the lives of people with intersex conditions might be easier if this fact were more widely known...</u> E ~we know little about intersex and that such ignorance <u>makes the lives of those with intersex characteristics harder.</u>	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
III	空所補充問題	turn という基本動詞と結びついた前置詞を入れる問題。昨年の前置詞問題よりやや難しいと言えそう。何年かに一度出題される形式だ。turn～off、turn against～は知らなくても仕方ない。turn～around、turn over a new leaf、turn in はやや難しい。turn down～、turn up、as it turned out はできないといけないであろう。	やや難
IV	正誤問題	社会科学部や人間科学部の正誤問題より解きやすいのが普通だが、今年度はかなり難しかった。知覚動詞として felt good education needed のように feel O done の形が可能かどうか。「およそ5時に」の意味で(at) about five o'clock と about がある場合 at を省略できるが、「これをおよそ10ドルで買った」の場合 for を省略して bought this about ten dollars と言えるか？ the director を one で受けられるか？ どれもかなりの難問だ。	やや難
V	空所補充問題	純粋な空所補充問題。allow A to (do)「A が～するのを可能にする」、for the first time in human history「歴史上初めて」、倍数 A + the size of～「～のA 倍大きい」、close to～「～の近くに」、defied「～に反した」の意味がポイント。語法、熟語、文法、単語といろいろな知識が試されている。	やや易
VI	語整序問題	一昨年から語整序問題。一昨年は語形変化がありだったが、昨年から語形変化は不可。1は more than 200 million people are dependent on the ocean for their livelihood と並ぶ。be dependent on A for B「A に B を依存する」の形を知っていると解きやすいだろう。2は that の処理と be essential to～「～にとって不可欠だ」くらいしかポイントはない。すべての単語を並べるので、常に冠詞の意識も重要だ。語整序問題としてはそれほど難問ではない。	標準
VII	自由英作文問題	単独の自由英作文問題。一昨年、昨年同様今年度も描かれた絵を説明する問題。ただ、今年度は your thoughts ではなく、what this image means to you であった。例年以上にわかりにくい絵なので、想像力をたくましくして説明できるかが内容としては大きい。表現としてはいつもながらいかに簡単な語彙や構造、文法を使い、やさしく書けるかがポイントだろう。	標準